

## 平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	筑波技術大学				
取 組 名 称	携帯型端末を用いた弱視学生の資格試験対策				
取組学部等	保健科学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A21013	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	ICT				
キーワード	携帯型端末, 弱視学生, 資格試験, 自習活動, e-learning				

### <選定理由>

本取組は、社会的に自立した視覚障害者の養成という重要な目標を掲げた学部として、きわめて必要性の高い国家試験に対応する教育の発展に取り組む試みとして高く評価できる。

学生の視覚障害の特性や、学力の個人差を考慮しつつ、自習時間を増加させ、効率よく学習させるための携帯型端末上のシステムを開発、実用に供することには大きな意義がある。

ただし、情報システム学科の教員との共同について計画に不明瞭な点があることなど、実現性についての説明が十分とは言えない。

今後、学部をあげた取組として計画をさらに具体化し、多くの教員が協力して目的を達成し、成果を共有することを期待する。

取組の概要【1 ページ以内】

本取組は、ゲーム機や携帯電話に代表される携帯型端末の機動性と柔軟性を生かし、視覚に障害のある弱視学生の資格試験合格を目指した自習活動を支援するe-learning環境を構築するものである。

筑波技術大学・保健科学部は、視覚障害者のみを受け入れる国内唯一の高等教育機関であり、保健学科と情報システム学科から構成される。保健学科には鍼灸学専攻と理学療法学専攻の2専攻があり、視覚障害学生が医療分野を学ぶという他大学にはあまり見られない特殊性を有する。彼らが卒業後に自立した生活を営むためには、学士として卒業すると同時に国家試験に合格するという目標も達成しなければならない。また情報システム学科の学生も、システムアドミニストレータ試験や情報処理技術者試験などの資格を在学中に取得することが、希望就職先への能力提示に多大な影響を与える。そのため、各学科は授業をベースに、独自の資格試験対策に取り組んでいる。

しかし、一般的な試験対策用の教材・参考書等は視覚障害者が利用しづらい形態のものが多く、そこで現在は拡大読書器の利用や大きなフォントを用いた印刷など、担当教員が独自に様々な工夫を凝らしているが、教材不足により学生の自習活動環境の構築が進んでいない。巷にあふれるコンピュータを利用した学習リソースの利用も考えられるが、音声化や画面拡大といった障害補償ソフトウェアとなじまないものも多く、学生がストレスなく利用することは難しい。仮にアクセス可能な学習リソースがあったとしても、パソコン利用が前提となるため、普段持ち歩いて、いつでもどこでも自学を進めるという用途には向かない。

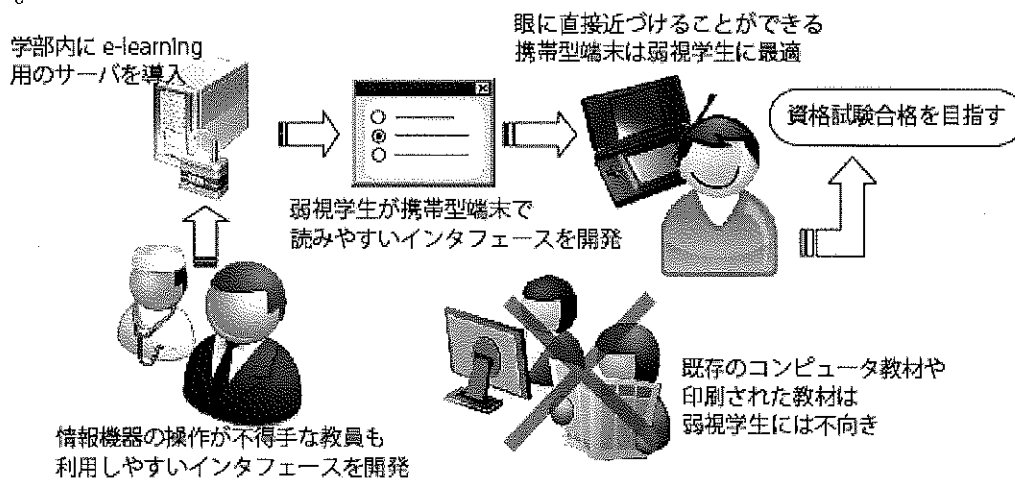


図 取組の概要

そこで本取組では、無線LANの使える携帯型端末を利用した資格試験対策用のe-learning環境を構築することで、学生の自習活動を支援することを目指す。将来的には全盲の学生の利用も検討しつつ、本取組では主に弱視学生を対象とする。携帯型端末はパソコンと異なり画面自体を眼に近づけることが可能なため、弱視学生も比較的情報を取得しやすい。また、携帯型ゲーム機を用いた試みは、これまで大阪電気通信大学など他大学でも行なわれており、学生のモチベーション向上や参加形態の多様化などに実績がある。これら先人の成功例を踏まえ、本取組では特に「弱視学生の利用できる教材」の開発に力点を置き、学生らの資格試験合格を目指す。